

平成29年度 事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

認定NPO法人 IVY

1 事業の成果

以下の通り事業を実施した。それぞれの事業の成果については、下記2に詳細を記載。

2 事業の実施に関する事項

(1) ①世界の困窮した状況に対する迅速かつ適切な協力活動

事業人 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額(単位:千円)
2州における農業協同組合の有機農産物販売強化を通じた貧困削減事業 フェーズII	<p>【内容】 プレアビア州にて新たに3つの農協を有機米共同販売に加えた。また247人の組合員が有機認証を取得した。事業詳細については下記の通り。</p> <p>【実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 有機米共同販売 新しく3つ農協(出荷登録247人)が契約栽培の同意書を結び、うち出荷者は135人が102,876ドルを売り上げた。 有機認証のためのICS確立 247人の組合員の田が国際有機認定を取得した。 米の品質向上 種籾栽培研修に参加した組合員(63人)の米の純正率が9%向上した。 また登録農家の内コンバイン収穫機使用者(8人)の米の破米率が8%低下した。 今後もコンバイン収穫機が継続して使用されることにより、米の等級が維持される見込み。 農協と農協連合の能力向上 3つの新規加入農協が共同販売事業を持続的に運営していく財政プランを立てた。 農協連合の理事及び職員10人と農協リーダー24人が、財務報告を理解し、事業計画を立てる能力がついたとビジネスマネジメント専門家によって判断された。 SACの鶏肉販売強化 SAC(スバイリエン州農産物組合)の鶏生産者53人が鶏を卸すことができ月平均1,328ドルを売り上げた。 CO r AAによる環境構築 SACの首都向けに出荷する全ての野菜を有機野菜に切り替えるため、認定更新を行ったが、CO r AA(カンボジア有機農業協会)の有機認定の基準が一気に高くなったことにより、認定の更新が保留となっている。 有機作物の認知度、信頼性、付加価値を 	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/3/9 (B) カンボジア王国プレアビア州、スバイリエン州 (C) 9人</p>	<p>(D) カンボジア王国プレアビア州、スバイリエン州の農業従事者 (E) 800人</p>	42,790

	<p>高めるために顧客の9割に有機野菜認定価格を受け入れてもらう予定だったが、有機野菜の認定価格が掲示されなかった。</p> <p>7. SAC出荷センターの性能向上</p> <p>冷房保存室を設置することにより、品質を保ったまま、首都圏への納品が可能になった。しかし、マーケティングマネジャーの不在、競争の激化により首都への野菜の売り上げが24%減った時期もあった。</p> <p>野菜の売り先を新規で3軒、再開で1軒、計4軒確保することができた。</p> <p>(外務省日本NGO連携無償資金協力事業)</p>			
カンボジア算数教育支援プロジェクト (IVYyouthの活動)	<p>【内容】カンボジアにおける小学校の教材不足の改善及び学力向上のための算数ドリル配布を行う地域を、コンポントム州プラサットバラン郡に決定。同郡の小学校9校で支援を開始することになった。</p> <p>【指標】新規プロジェクト立ち上げ</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンポントム州プラサットバラン郡小学校9校に支援地決定 ・9校に対し算数ドリル配布 ・1年生に対する学習会の試行実施 	(A) 2017/4/1 ～2018/3/31 (B) カンボジア王国コンポントム州プラサットバラン郡 (C) 19人	(D) カンボジア王国コンポントム州プラサットバラン郡の児童及び教師 (E) 527人	1,096
イラク共和国キャンプ外難民・国内避難民への教育・越冬支援事業フェーズIV	<p>【内容・実績】</p> <p>イラク共和国エルビル県トゥラック村に居住する国内避難民児童が初等教育を受けられるようサポートした。また、国内避難民とシリア難民世帯が厳しい冬を越せるように越冬支援物資を配布した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 375人 (補習校児童登録数) 2. 851人 (トゥラック村小学校児童登録数) 3. 2,808世帯 (内訳: 2,440世帯、国内避難民、72世帯、ホストコミュニティ296世帯) 	(A) 2017/4/1 ～2017/5/31 (B) イラク共和国クルド自治区エルビル県 (C) 4人	(D) イラク共和国エルビル県補習校、小学校の児童・教師 (E) 1. 375人 2. 851人 3. 2,808世帯	1,866
イラク共和国モスル緊急対応—ディバガ及びハザールキャンプにおける越冬支援・生活物資配布事業	<p>【内容】モスル奪還作戦の影響で新規避難民が増加傾向にあるディバガ・ハザールキャンプ住民に対し、昨年度冬物衣料及び衛生用品を配布した。</p> <p>【実績】本年度は配布後の聞き取り調査を実施し、449世帯中昨年度10～11月にかけてキャンプへ避難した335世帯が今回の危機対応に合致した裨益者であることが分かった。</p> <p>(ジャパンプラットフォーム助成事業)</p>	(A) 2017/4/1 ～2017/5/31 (B) イラク共和国クルド自治区エルビル県・ニナワ県 (C) 4人	(D) ハザールキャンプに住む住民 (E) 449世帯	1,267
イラク共和国エルビル県学校補修事業	<p>【内容・実績】</p> <p>クルド教育省管轄の老朽化した学校4校の補修工事を行い、児童・生徒・教員合わせて4,460人へ安全で快適な教育環境を提供することができた。</p> <p>(外務省日本NGO連携無償資金協力事業)</p>	(A) 2017/4/1 ～2017/6/12 (B) イラク共和国クルド自治区エルビル県 (C) 4人	(D) 対象補習校の児童・教師 (E) 4,460人	5,646

<p>イラク共和国シリア難民教育支援事業フェーズV</p>	<p>【内容】イラク共和国エルビル県バンスラワ地区においてシリア難民児童の補習校と公立校の開校と運営のサポートを行った。</p> <p>【指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バンスラワ補習校（サマースクール）の開設と運営 2. バンスラワ小学校の開設と運営 <p>【実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 160人が登録 2. 248人が登録 <p>（ジャパンプラットフォーム助成事業）</p>	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/2/28</p> <p>(B) イラク共和国クルド自治区エルビル県</p> <p>(C) 4人</p>	<p>(D) バンスラワ小学校の児童</p> <p>(E)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 160人 2. 248人 	<p>27,412</p>
-------------------------------	---	---	--	---------------

<p>イラク共和国北部シリア難民・国内避難民への越冬支援</p>	<p>【内容】イラク共和国エルビル県の脆弱なシリア難民・ホストコミュニティ世帯及びニナワ県ジェダアキャンプ避難民に対し越冬支援を行い、冬に必要な物資の不足を補った。</p> <p>【実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脆弱なシリア難民（405世帯）及びホストコミュニティ世帯（45世帯）に灯油160ドル分（2200）を配布。 2. 新規避難民へユニクロから提供された冬物衣料を国内避難民／15歳以上の男女各2,500人に配布。 <p>（ジャパンプラットフォーム助成事業）</p>	<p>(A) 2017/12/28～ 2018/3/31</p> <p>(B) イラク共和国エルビル県・ニナワ県</p> <p>(C) 4人</p>	<p>(D) イラク共和国エルビル県・ニナワ県のシリア難民・ホストコミュニティ</p> <p>(E) 455世帯（シリア難民世帯）47世帯（ホストコミュニティ世帯）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 6,966人（国内避難民） 	<p>17,891</p>
<p>イラク共和国エルビル県学校補修事業（第2期）</p>	<p>【内容】イラク共和国エルビル県の老朽化した学校校舎を、本事業の補修工事によって安全で快適な施設に改善した。また教員に対し校舎維持管理に関する第1回ワークショップを実施した。</p> <p>【指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校舎の補修 2. 校舎維持管理ワークショップを通じた教員の主体的、持続的な維持管理意識の醸成 <p>【実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補修予定7校のうち5校の工事が完了。 2. ワークショップ実施（3月） <p>34人参加（内訳：8人教育省、26人補修校7校の教員）</p> <p>学校ごとに維持管理に対するアクションプランを作成。</p> <p>（外務省日本NGO連携無償資金協力事業）</p>	<p>(A) 2018/1/25 ～2018/3/31</p> <p>(B) イラク共和国クルド自治区エルビル県</p> <p>(C) 4人</p>	<p>(D) イラク共和国クルド自治区エルビル県の児童及び教師</p> <p>(E)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6,073人 2. 34人 	<p>18,293</p>

②日本に定住する外国人への支援活動

事業人 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対 象者の範 囲 (E) 人数	事業費の 金額 (単 位: 千円)
通訳翻訳サー ビス	<p>【内容】法テラス、県弁護士会、医療機 関、その他行政や民間企業からの依頼を受 けて通訳/翻訳のサービスと提供する法律勉 強会を実施した。</p> <p>【指標】</p> <p>1. 医療通訳養成講座を計4回開催。受講者 各10人以上。</p> <p>2. 通訳派遣50件、翻訳30件</p> <p>【実績】</p> <p>1. 5回実施 (庄内：法律1、医療1、山形： 法律2、医療1)</p> <p>2. 通訳派遣59件、翻訳10件</p>	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/3/31</p> <p>(B) 日本国内</p> <p>(C) 16人</p>	<p>(D) 法律勉 強会に関 心がある 市民</p> <p>(E) 受講者1 . 50人 2. 通訳 派遣59件 翻訳依頼10 件</p>	759
第11回日本語 スピーチコン テスト	<p>【内容】外国人による日本語スピーチコン テスト。</p> <p>【指標】</p> <p>1. 年齢、出身国、来日目的等多様性に富 む参加者が6人以上</p> <p>2. 来場者が30人以上</p> <p>【実績】</p> <p>1. 参加者4人/男3女1、在住地、国籍、年 齢、来日目的ともに多様な参加者</p> <p>2. 来場者37人</p>	<p>(A) 2017/10/14</p> <p>(B) 山形市霞城セ ントラル</p> <p>(C) 4人</p>	<p>(D) 山形県 内の在 住外国 人</p> <p>(E) 1. 4人 2. 37人</p>	90
子どもの補習 教室	<p>【内容】中国ルーツの子ども達がクラスの 授業についていける、また学習習慣がつく よう、夏休み以降、月1回、山形こども日本 語サポートネットと共催で、無料学習支援 を実施する。</p> <p>【指標】</p> <p>1. 月1回、日曜日の午前2時間実施</p> <p>2. 1回に平均5人以上年間70人以上のこど もが参加する</p> <p>【実績】</p> <p>1. 9回実施</p> <p>2. 計51人参加 (1回平均5.7人)</p>	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/3/31</p> <p>(B) 北部市営団 地集会所</p> <p>(C) 3人</p>	<p>(D) 山形県 内の中 国に ルーツ をもつ 子ども</p> <p>(E) 51人</p>	0
多言語相談	<p>【内容】相談者のニーズに沿った対応を し、相談者の母語で、相談を受けた。</p> <p>【指標】年間20件以上</p> <p>【実績】26件</p>	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/3/31</p> <p>(B) 日本国内</p> <p>(C) 3人</p>	<p>(D) 在住外 国人</p> <p>(E) 26人</p>	38

③地球市民を育てる国際理解教育・環境教育

事業人 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対 象者の範 囲 (E) 人数	事業費の 金 額 (単位： 千円)
ファシリテーター養成講座	【内容】地球子どもキャンプに先立ち、大学生を対象にキャンプのリーダー養成講座を実施。前半は環境教育アクティビティ実践、ファシリテーター体験などを行い、後半は地球子どもキャンプのプログラム作りについて話し合いを行った。 【指標】参加者20人【実績】参加者17人	(A) 2017/10/28 ～2017/10/29 (B) 朝日少年自然の家 (C) 1人	(D) 山形県 宮城県 の大学 生・留 学生 (E) 17人	112
地球子ども キャンプ	【内容】小学生が自分と世界のつながりを知り、リーダーとなった大学生が地球環境問題に関心を持つようになることを目的とし、本年度は「水」をテーマとして、4つのアクティビティを実施した。 【指標】 1. 45人(小学生) 2. 30人(大学生リーダー) 【実績】 1. 24人(小学生) 2. 26人(大学生リーダー)	(A) 2018/1/13 ～2018/1/14 (B) 朝日少年自然の家 (C) 27人	(D) 小学生 大学生 (E) 1. 24人 2. 26人	305
開発教育ワークショップの 要請への派遣、自主運営 企画	【内容】IVYの活動や国際協力についての理解促進を図るとともに、ユースのファシリテーションスキルの向上を図った。学校現場や大学、他団体からの要請に基づき、ユース(大学生組織)と協働でワークショップを行った。 【指標】 派遣回数19回、参加者数980人 【実績】 派遣回数:19回、参加者:1,148人	(A) 2017/4/1 ～2018/3/31 (B) 山形県、宮城県 (C) 25人	(D) 大学生 (E) 1. 19回 2. 1,148人	235
国際理解実践 フォーラム	【内容】今年で14回目となる国際理解実践フォーラムをJICA東北、山形県国際交流協会との共催で実施し、6つの分科会を行った。IVYは、多文化共生、国際理解教育、難民を知るワークショップの3つの分科会を受け持った。	(A) 2017/11/26 (B) 山形市霞城 セントラル (C) 4人	(D) イベントに 関心があ る市民 (E) 101人	0
イベントへの 出展	【内容】IVYの活動紹介ブースを出展し、市民の国際区協力に対する理解の促進を図った。主な出展イベントは下記の通り。 1. せんだい地球フェスタ 2. グローバルフェスタ2017	(A) 1. 2017/9/18 2. 2017/10/1 (B) 1. 仙台市 2. 東京都 (C) 12人	(D) イベントに 関心があ る市民 (E) 500人 (ブース訪 問者数)	0

④関連団体及び関係する県内、国際機関との情報交換、連絡調整及び協力、並びにこの法人の目的にかなう事業を行っている他団体に対しての助成援助

事業人 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実 施日時 (B) 当該事業の実 施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対 象 者の範 囲 (E) 人数	事業費の 金 額 (単位： 千円)
外務省NGO 相談員事業	<p>【内容】 NGO団体の基盤強化への相談対応、市民に対し国際協力への理解促進を図るため出張サービスを実施した。</p> <p>【指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談対応実施 (1, 170件) 2. 出張サービス東北6県で8回実施 3. 第2回NGO相談員連絡会議を石巻市で開催 <p>【実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1, 151件 2. 東北6県で11回実施 3. 石巻市で実施 	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/3/31</p> <p>(B) 東北6県他</p> <p>(C) 2人</p>	<p>(D) 東北6県 のNGO及 び市民</p> <p>(E)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1, 151件 2. 東北6県 で11回実 施 	3, 171
IVYみやぎ 事業	<p>【内容】 支援者の拡大や新たな人材獲得、ファンドレイジングを目的として、宮城県仙台市を拠点に、イベント等への出展や難民ワークショップ等を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベントへの出展 2. 難民ワークショップの実施 3. クラウドファンディング 	<p>(A) 2017/4/1 ～2018/3/31</p> <p>(B) 宮城県</p> <p>(C) 1人</p>	<p>(D) 宮城県 民</p> <p>(E) 人数は NGO相談 員・イ ベント 出展で カウン ト済み</p>	0

(2) その他の事業
実施しなかった。

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 3 2の(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。